

「市立豊中病院内科専門研修プログラム」

市立豊中病院プログラム管理委員会

(2018年3月)

基幹病院：市立豊中病院

〒560-8565 大阪府豊中市柴原町4丁目14番1号

TEL 06-6843-0101 (代)

<http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/>

1. 理念・使命・特性

理念【整備基準1】

- 1) 本プログラムは、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設として、大阪府豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を経て大阪府の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた可塑性のある内科専門医として大阪府全域を支える内科専門医の育成を行います。
- 2) 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での3年間（基幹施設2年間+連携施設1年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力です。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナルリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴があります。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とします。

使命【整備基準2】

- 1) 大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。
- 2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。
- 3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。
- 4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

特性

- 1) 本プログラムは、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設として、大阪府豊能医療圏、および兵庫県南西部に位置する連携施設とで内科専門研修を経て超高

齡社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設 2 年間+連携施設 1 年間の 3 年間になります。

- 2) 市立豊中病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- 3) 基幹施設である市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核であります。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。
- 4) 基幹施設である市立豊中病院および連携施設での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- 5) 市立豊中病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 2 年目の 1 年間、連携施設で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- 6) 基幹施設である市立豊中病院での 2 年間と連携施設での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、J-OSLER に登録できます。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とします（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、1) 高い倫理観を持ち、2) 最新の標準的医療を実践し、3) 安全な医療を心がけ、4) プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- 1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- 2) 内科系救急医療の専門医
- 3) 病院での総合内科（Generality）の専門医
- 4) 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

市立豊中病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナルリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

2. 募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により、市立豊中病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 9 名とします。

- 1) 市立豊中病院内科後期研修医は現在 3 学年併せて 16 名で 1 学年 5～7 名の実績があります。
- 2) 剖検体数は 2013 年度 11 体、2014 年度 13 体、2015 年度 10 体、2016 年度 9 体です。

表. 市立豊中病院専門領域別診療実績 (2014 年度)

	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/ 年)	
消化器内科	2,287	40,693	
循環器内科	732	16,843	
神経内科	454	8,591	
内分泌代謝内科	299	51,151	
腎臓内科	203		
血液内科	448		
総合内科	309		
アレルギー	75		
膠原病	42		
感染症	397		
救急	294		
合計	6,151		1,172,278

内科の診療科グループは消化器内科、循環器内科、糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、神経内科、血液内科の 7 グループで構成されます。総合内科疾患、アレルギー、膠原病、感染症、救急疾患の入院・外来患者は 7 つのグループで横断的に診療を担当しています。すべての領域で外来患者診療を含め、1 学年 9 名に対し十分な症例を経験することが可能です。

- 3) 内科系関連 13 領域のうち膠原病、感染症、老年医学分野を除く 10 領域で専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照）。
- 4) 1 学年 9 名までの専攻医であれば、専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定め

られた 45 疾患群, 120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です。

- 5) 専攻医 2 年目に研修する連携施設には, 高次機能・専門病院 2 施設, 地域基幹病院 4 施設, 計 6 施設あり, 専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能です。
- 6) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳 (疾患群項目表)」に定められた少なくとも 56 疾患群, 160 症例以上の診療経験は達成可能です。

3. 専門知識・専門技能とは

- 1) 専門知識【整備基準 4】 [「内科研修カリキュラム項目表」参照]
専門知識の範囲(分野)は, 「総合内科」, 「消化器」, 「循環器」, 「内分泌」, 「代謝」, 「腎臓」, 「呼吸器」, 「血液」, 「神経」, 「アレルギー」, 「膠原病および類縁疾患」, 「感染症」, ならびに「救急」で構成されます。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている, これらの分野における「解剖と機能」, 「病態生理」, 「身体診察」, 「専門的検査」, 「治療」, 「疾患」などを目標(到達レベル)とします。
- 2) 専門技能【整備基準 5】 [「技術・技能評価手帳」参照]
内科領域の「技能」は, 幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた, 医療面接, 身体診察, 検査結果の解釈, ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。さらに全人的に患者・家族と関わってゆくことや他の Subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力とが加わります。これらは, 特定の手技の修得や経験数によって表現することはできません。

4. 専門知識・専門技能の習得計画

- 1) 到達目標【整備基準 8~10】 (巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照)
主担当医として「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める全 70 疾患群を経験し, 200 症例以上経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため, 内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります。そこで, 専門研修(専攻医)年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します。

○専門研修(専攻医) 1 年:

- ・症例: 「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち, 少なくとも 20 疾患群, 60 症例以上を経験し, J-OSLER にその研修内容を登録します。以下, 全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます。
- ・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して J-OSLER に登録します。
- ・技能: 研修中の疾患群について, 診断と治療に必要な身体診察, 検査所見解釈, および治療方針決定を指導医, Subspecialty 上級医とともに行うことができます。
- ・態度: 専攻医自身の自己評価と指導医, Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修(専攻医) 2 年:

- ・症例: 「研修手帳 (疾患群項目表)」に定める 70 疾患群のうち, 通算で少なくとも 45 疾患群,

120 症例以上の経験をし、J-OSLER にその研修内容を登録します。

- ・専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して J-OSLER への登録を終了します。
- ・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医、Subspecialty 上級医の監督下で行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修（専攻医）3 年：

- ・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、200 症例以上経験することを目標とします。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し、J-OSLER にその研修内容を登録します。
- ・専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認します。
- ・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は、日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）による査読を受けます。査読者の評価を受け、形成的により良いものへ改訂します。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）を一切認められないことに留意します。
- ・技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができます。
- ・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、Subspecialty 上級医およびメディカルスタッフによる 360 度評価とを複数回行って態度の評価を行います。専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナルリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

専門研修修了には、すべての病歴要約 29 症例の受理と、少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします。J-OSLER における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します。

市立豊中病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長します。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。

2) 臨床現場での学習【整備基準 13】内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します（下記 1）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。また、自らが経験することのできなかつた症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足します。これらを通じて、遭遇する

事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。

- ① 内科専攻医は、担当指導医もしくは Subspecialty の上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽します。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。
- ② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索およびコミュニケーション能力を高めます。
- ③ 3 年目の研修では総合内科外来や Subspecialty 診療科外来を週 1 回、1 年以上担当医として経験を積みます。
- ④ 救急診療科の内科外来で内科領域の救急診療の経験を積みます。
- ⑤ 当直医として病棟急変などの経験を積みます。
- ⑥ 希望に応じて内視鏡検査や心臓カテーテル検査など Subspecialty 診療科検査を担当します。

3) 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

1) 内科領域の救急対応， 2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解， 3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項， 4) 医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項， 5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項， などについて， 以下の方法で研鑽します。

- ① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会
- ② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設 2015 年度実績 5 回）
※ 内科専攻医は年に 2 回以上受講します。
- ③ CPC（基幹施設 2016 年度実績 6 回）
- ④ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度：北大阪内科研究会、大阪血液疾患懇話会など年 6 回開催予定）
- ⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：豊中糖尿病研究会、北摂腎疾患懇話会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡研究会、若手実践内視鏡研究会、はひと会、中之島循環器代謝フォーラム、待兼山神経懇話会など；計 2015 年度実績 30 回）
- ⑥ JMECC 受講（基幹施設および大阪大学附属病院で予定：基幹施設では ACSL の 2016 年度開催実績 3 回：受講者 60 名）
※ 内科専攻医は必ず専門研修 1 年もしくは 2 年までに 1 回受講します。
- ⑦ 内科系学術集会（下記「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
- ⑧ 各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4) 自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として

自ら経験した), B (間接的に経験している (実症例をチームとして経験した, または症例検討会を通して経験した), C (レクチャー, セミナー, 学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した) と分類しています. (「研修カリキュラム項目表」参照) 自身の経験がなくても自己学習すべき項目については, 以下の方法で学習します.

- ① 内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
- ② 日本内科学会雑誌にある MCQ
- ③ 日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5) 研修実績および評価を記録し, 蓄積するシステム【整備基準 41】

J-OSLER を用いて, 以下を web ベースで日時を含めて記録します.

- ・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に, 通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します. 指導医はその内容を評価し, 合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
- ・専攻医による逆評価を入力して記録します.
- ・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し, 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード (仮称) によるピアレビューを受け, 指摘事項に基づいた改訂を受理 (アクセプト) されるまでシステム上で行います.
- ・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
- ・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等 (例: CPC, 地域連携カンファレンス, 医療倫理・医療安全・感染対策講習会) の出席をシステム上に登録します.

5. プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13, 14】

市立豊中病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は, 施設ごとに実績を記載した (「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照). プログラム全体と各施設のカンファレンスについては, 基幹施設である市立豊中病院臨床研修センターが把握し, 定期的に E-mail などで専攻医に周知し, 出席を促します.

6. リサーチマインドの養成計画【整備基準 6, 12, 30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず, これらを自ら深めてゆく姿勢です. この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹施設, 連携施設, 特別連携施設のいずれにおいても,

- ① 患者から学ぶという姿勢を基本とする.
- ② 科学的な根拠に基づいた診断, 治療を行う (EBM; evidence-based-medicine).
- ③ 最新の知識, 技能を常にアップデートする (生涯学習).
- ④ 診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
- ⑤ 症例報告を通じて深い洞察力を磨く.
といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を涵養します. 併せて,
- ① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
- ② 後輩専攻医の指導を行う.
- ③ メディカルスタッフを尊重し, 指導を行う.
を通じて, 内科専攻医としての教育活動を行います.

7. 学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院のいずれにおいても，

- ① 内科系の学術集会や企画に年2回以上参加します（必須）．
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系 Subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨します．
- ② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います．
- ③ 臨床的疑問を抽出して臨床研究を行います．
- ④ 内科学に通じる基礎研究を行います．

を通じて，科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします．

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者2件以上行います．

なお，専攻医が，社会人大学院などを希望する場合でも，市立豊中病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します．

8. コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」とは観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です．これは観察可能であることから，その習得を測定し，評価することが可能です．その中で共通・中核となる，コア・コンピテンシーは倫理観・社会性です．

市立豊中病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設のいずれにおいても指導医，Subspecialty 上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である市立豊中病院内科専門研修センターが把握し，定期的に E-mail など専攻医に周知し，出席を促します．

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します．

- ① 患者とのコミュニケーション能力
- ② 患者中心の医療の実践
- ③ 患者から学ぶ姿勢
- ④ 自己省察の姿勢
- ⑤ 医の倫理への配慮
- ⑥ 医療安全への配慮
- ⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
- ⑧ 地域医療保健活動への参画
- ⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- ⑩ 後輩医師への指導

※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけでなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます．

9. 地域医療における施設群の役割【整備基準 11, 28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．市立豊中病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府豊能医療圏から構成されています．

市立豊中病院は，大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに，地域の病診・病病連

携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジェーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設は内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能である大阪大学附属病院、専門病院である国立病院機構刀根山病院、地域基幹病院である市立池田病院、箕面市立病院、市立吹田市民病院、市立川西病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。地域基幹病院では、市立豊中病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

病院内科専門研修施設群は、大阪府豊能医療圏および近隣医療圏から構成しています。いずれも大阪府北部または兵庫県南西部に位置し、交通の利便性はよく移動はすみやかに行なえ、連携に支障をきたす可能性はありません。

10. 地域医療に関する研修計画【整備基準 28, 29】

市立豊中病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としています。

市立豊中病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

11. 内科専攻医研修（モデル）【整備基準 16】

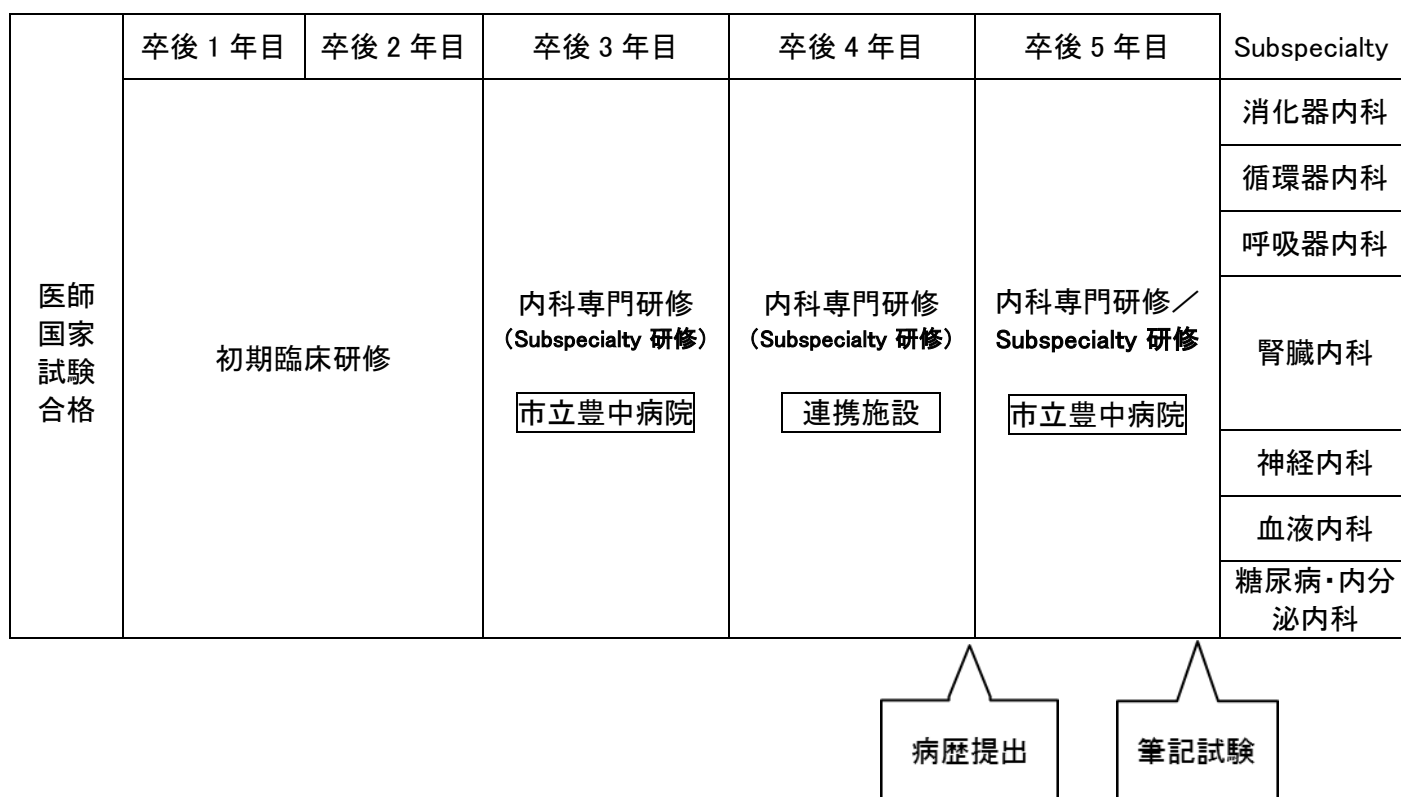


図 1. 市立豊中病院内科専門医研修プログラム（概念図）

1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修（専攻医）を、2 年目は連携施設研修を行います。3 年目は市立豊中病院で Subspecialty を含めた専門研修（専攻医）を行ないます。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修 (Subspecialty 重点研修) の開始を考慮します。

12. 専攻医の評価時期と方法【整備基準 17, 19～22】

(1) 市立豊中病院内科専門研修センターの役割

- ・市立豊中病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います。
- ・市立豊中病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について J-OSLER を基にカテゴリー別の充足状況を確認します。
- ・3 か月ごとに J-OSLER 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- ・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- ・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）、専攻医自身の自己評価を行います。その結果は J-OSLER を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形式的にフィードバックを行って、改善を促します。
- ・内科専門研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行います。担当指導医、Subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価します。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します。評価は無記名方式で、臨床研修センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、J-OSLER に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）。その結果は J-OSLER を通じて集計され、担当指導医から形式的にフィードバックを行います。
- ・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します。

(2) 専攻医と担当指導医の役割

- ・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が市立豊中病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- ・専攻医は web にて J-OSLER にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- ・専攻医は、1 年目専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにします。2 年目専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにします。3 年目専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を修了します。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認します。
- ・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲

で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。

- ・担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
- ・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時まで 29 症例の病歴要約を順次作成し、J-OSLER に登録します。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要があります。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。これによって病歴記載能力を形成的に深化させます。

(3) 評価の責任者年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討します。その結果を年度ごとに市立豊中病院内科専門研修管理委員会で検討し、統括責任者が承認します。

(4) 修了判定基準【整備基準 53】

- 1) 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容の評価し、以下 i)～vi) の修了を確認します。
 - i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済み（巻末別表 1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
 - ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理
 - iii) 所定の 2 編の学会発表または論文発表
 - iv) JMECC 受講
 - v) プログラムで定める講習会受講
 - vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性
- 2) 市立豊中病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

(5) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、 「指導医による指導とフィードバックの記録」 および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、J-OSLER を用います。なお、「市立豊中病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「市立豊中病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】を別に示します。

13. 専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34, 35, 37～39】

（「市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

- 1) 市立豊中病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準
 - i) 内科専門研修プログラム管理委員会（専門医研修プログラム準備委員会から 2016 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。内科専

門研修プログラム管理委員会は、統括責任者（嶺尾郁夫）、プログラム管理者（巽 千賀夫）（ともに内科指導医）、事務局代表者、内科 Subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科部長）および連携施設担当委員で構成されます。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会参照）。市立豊中病院内科専門研修管理委員会の事務局を、市立豊中病院内科専門研修センターにおきます。

ii) 市立豊中病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置します。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 6 月と 12 月に開催する市立豊中病院内科専門研修管理委員会の委員として出席します。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 4 月 30 日までに、市立豊中病院内科専門研修管理委員会に以下の報告を行います。

- ① 前年度の診療実績
 - a) 病院病床数, b) 内科病床数, c) 内科診療科数, d) 1 か月あたり内科外来患者数, e) 1 か月あたり内科入院患者数, f) 剖検数
- ② 専門研修指導医数および専攻医数
 - a) 前年度の専攻医の指導実績, b) 今年度の指導医数/総合内科専門医数, c) 今年度の専攻医数, d) 次年度の専攻医受け入れ可能人数.
- ③ 前年度の学術活動
 - a) 学会発表, b) 論文発表
- ④ 施設状況
 - a) 施設区分, b) 指導可能領域, c) 内科カンファレンス, d) 他科との合同カンファレンス, e) 抄読会, f) 机, g) 図書館, h) 文献検索システム, i) 医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会, j) JMECC の開催.
- ⑤ Subspecialty 領域の専門医数
日本消化器病学会消化器専門医数, 日本循環器学会循環器専門医数, 日本内分泌学会専門医数, 日本糖尿病学会専門医数, 日本腎臓病学会専門医数, 日本呼吸器学会呼吸器専門医数, 日本血液学会血液専門医数, 日本神経学会神経内科専門医数, 日本アレルギー学会専門医数、日本肝臓学会専門医数、日本老年医学会専門医数、日本感染症学会専門医数、

14. プログラムとしての指導者研修 (FD) の計画【整備基準 18, 43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」を活用します。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。指導者研修 (FD) の実施記録として、J-OSLER を用います。

15. 専攻医の就業環境の整備機能 (労務管理) 【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします。

専門研修 (専攻医) 1 年目, 3 年目は基幹施設である市立豊中病院の就業環境に, 専門研修 (専攻医) 2 年目は連携施設の就業環境に基づき, 就業します (「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設である市立豊中病院の整備状況：

- ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。
- ・豊中市非常勤医師として労務環境が保障されています。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。
- ・ハラスメント委員会が市立豊中病院内に整備されています。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
- ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「市立豊中病院内科専門施設群」を参照。また、総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に改善を図ります。

16. 内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

- 1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価 J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は年に複数回行います。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。また集計結果に基づき、市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 2) 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス専門研修施設の内科専門研修委員会、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握します。把握した事項については、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します。
 - ① 即時改善を要する事項
 - ② 年度内に改善を要する事項
 - ③ 数年をかけて改善を要する事項
 - ④ 内科領域全体で改善を要する事項
 - ⑤ 特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。

- ・担当指導医、施設の内科研修委員会、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし、市立豊中病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して市立豊中病院内科専門研修プログラムを評価します。
- ・担当指導医、各施設の内科研修委員会、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会、および日本専門医機構内科領域研修委員会は J-OSLER を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし、自律的な改善に役立てます。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てます。

3) 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

市立豊中病院臨床研修センターと市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会は、市立豊中病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します。その評価を基に、必要に応じて市立豊中病院内科専門研修プログラムの改良を行います。

市立豊中病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します。

17. 専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は、毎年7月から website での公表や説明会などを行い、内科専攻医を募集します。翌年度のプログラムへの応募者は、11月30日までに市立豊中病院内科専門研修センターの website の市立豊中病院医師募集要項（市立豊中病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募します。書類選考および面接を行い、翌年1月の市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知します。

（問い合わせ先）市立豊中病院内科専門研修センター

E-mail:hsoumu@cjty.toyonaka.osaka.jp HP: <http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/>

市立豊中病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく J-OSLER にて登録を行います。

18. 内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に J-OSLER を用いて市立豊中病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証します。これに基づき、市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認めます。他の内科専門研修プログラムから市立豊中病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様です。

他の領域から市立豊中病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修をはじめめる場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに市立豊中病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、J-OSLER への登録を認めます。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム終了要件を満たしており、かつ休職期間が6ヶ月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとします。これを超える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要です。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日7時間、週5日を基本単位とします）を行なうことによって、研修実績に加算します。留学期間は、原則として研修期間として認めません。

市立豊中病院内科専門研修施設群
研修期間：3年間（基幹施設2年間＋連携1年間）

医師 国家 試験 合格	卒後1年目	卒後2年目	卒後3年目	卒後4年目	卒後5年目	Subspecialty
	初期臨床研修		内科専門研修 (Subspecialty 研修) 市立豊中病院	内科専門研修 (Subspecialty 研修) 連携施設	内科専門研修/ Subspecialty 研修 市立豊中病院	消化器内科
						循環器内科
						呼吸器内科
						腎臓内科
						神経内科
						血液内科
						糖尿病・内分泌内科



図1. 市立豊中病院内科専門医研修プログラム（概念図）

1年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修（専攻医）を、2年目は連携施設研修を行います。3年目は市立豊中病院で Subspecialty を含めた専門研修（専攻医）を行いません。希望があれば内科研修当初2年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修（Subspecialty 重点研修）の開始を考慮します。

表. 市立豊中病院内科専門研修施設群の各研修施設概要

	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科 数	内科指 導医数	総合内 科専門 医数	内科剖 検数
基幹病院	市立豊中病院	599	198	4	23	13	13
連携施設	市立池田病院	364	184	8	19	10	10
連携施設	箕面市立病院	317	150	4	12	7	11
連携施設	市立吹田市民病院	431	164	7	15	10	12
連携施設	大阪大学附属病院	1086	326	9	108	50	13
連携施設	刀根山病院	500	440	3	13	5	14
連携施設	市立川西病院	250	106	1	8	6	10

表. 各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
市立豊中病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立池田病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
箕面市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立吹田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	×	○	×	×
刀根山病院	○	×	×	×	×	×	○	×	○	○	×	○	△
市立川西病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階（○、△、×）に評価しました。＜○研修できる：疾患充足度 50%以上。△時に経験できる：疾患充足度 50%未満、×ほとんど経験できない：疾患充足度 0%＞

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。市立豊中病院内科専門研修施設群研修施設は大阪府豊能地域の医療機関を中心に構成されています。

市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能である大阪大学医学部附属病院、専門病院である国立病院機構刀根山病院、地域基幹病院である箕面市立病院、市立池田病院、市立吹田市民病院、市立川西病院で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では、市立豊中病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

専門研修施設（連携施設）の選択

- ・ 専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します。
- ・ 病歴提出を終える専攻医 2 年目の 1 年間，連携施設で研修をします（図 1）。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

大阪府豊能医療圏およびその近隣にある施設から構成しています。いずれも大阪府北部または、兵庫県南西部に位置し、交通の利便性はよく移動はすみやかに行なえ、連携に支障をきたす可能性はありません。

1) 専門研修基幹施設

市立豊中病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・豊中市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 30 名在籍しています（2018 年 1 月 31 日申請者を含む）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（医務局長）とともに内科指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2018 年度）を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2016 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2016 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、豊中糖尿病勉強会、北摂腎疾患談話会、豊中消化器病懇話会、北摂内視鏡治療研究会、待兼山神経懇話会、大阪血液疾患談話会、中之島循環器病代謝フォーラムなど、2015 年度実績 30 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年度 ACLS 開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 9 体、2015 年度実績 10 体、2014 年度実績 13 体、2013 年度 11 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、臨床研究室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的で開催しています（2016 年度実績 12 回）。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています（2016 年度実績 11 回）。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 7 演題、2015 年度実績 4 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>嶺尾 郁夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心となる急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p>

	<p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 （常勤内科医） 2016年12月1日 現在</p>	<p>日本内科学会指導医 23名、日本内科学会総合内科専門医 16名 日本消化器病学会消化器専門医 9名、日本肝臓病学会専門医 5名 日本循環器学会循環器専門医 5名、日本糖尿病学会専門医 3名、 日本内分泌学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本血液学会血液専門医 5名、 日本神経学会神経内科専門医 3名、日本アレルギー学会専門医 1名、</p>
<p>外来・入院患者数 （内科系）</p>	<p>外来延患者数 113,533名/年（2016年度） 入院件数 6,203件/年（2016年度）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・ 技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医 療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 （内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など</p>

2) 専門研修連携施設

市立池田病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・池田市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスメント委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<p>内科学会 指導医は16名在籍しています（下記）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績8回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス2015年度実績1回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野（膠原病を除く）では定常的に、膠原病分野も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績4演題）をしています。
指導責任者	今井康陽 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は、大阪府北摂地区医療圏の中心的な急性期病院であり、北摂地区医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医10名、日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓学会肝臓専門医4名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本内分泌学会内分泌専門医3名、日本糖尿病学会糖尿病専門医4名、日本腎臓病学会腎臓専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、日本血液学会血液専門医1名、日本神経学会神経内科専門医2名、日本救急医学会救急科専門医1名ほか
外来・入院患者数(内科系)	外来患者925.4名（1ヶ月平均） 入院患者327.8名（1ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、 <u>研修手帳（疾患群項目表）</u> にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	<u>技術・技能評価手帳</u> にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携

域医療・診療連携	なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	厚生労働省臨床研修指定病院 (医科) 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本病理学会病理専門医制度研修登録施設 A 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST (栄養サポートチーム) 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST (栄養サポートチーム) 稼働施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本緩和医療学会認定研修施設

箕面市立病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・任期付職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (事務局病院人事室) があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	<p>指導医は 17 名在籍しています (2018 年 1 月 31 日申請者を含む)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催 (2016 年度実績 7 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催 (2018 年度予定) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催 (2016 年度実績 8 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (箕面市病診連携懇談会・研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会 2016 年度実績ともに 1 回) を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24]	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています (上記)。

3) 診療経験の環境	・専門研修に必要な剖検（2016年度実績10体、2015年度実績12体、2014年度実績11体）を行っています。
認定基準 [整備基準24] 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2016年度実績6回）。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています（2016年度実績10回）。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2016年度実績6演題）をしています。
指導責任者	金井秀行 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医16名、日本内科学会総合内科専門医11名、日本消化器病学会消化器病専門医8名、日本肝臓病学会肝臓専門医4名、日本循環器学会循環器専門医3名、日本糖尿病学会専門医2名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医2名、日本腎臓病学会腎臓専門医2名（内科0名）、日本呼吸器学会呼吸器専門医0名、日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医3名、日本アレルギー学会専門医0名、日本リウマチ学会リウマチ専門医1名（内科0名）、日本感染症学会感染症専門医0名、日本救急医学会救急科専門医0名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医5名
外来・入院患者数 （内科系）	外来延患者数47,944名/年（2016年度） 入院延患者数46,297名/年（2016年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設 など

市立吹田市民病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

<p>【整備基準 23】 1)専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・吹田市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が吹田市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 19 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2016 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス、大阪内分泌代謝クリニカルカンファレンス、月曜会、代謝血管研究会、中之島循環器セミナー、北摂血液疾患談話会、大阪血液疾患談話会、Osaka Clinical Hematology Conference, 臨床血液セミナー、Practical Hematology, 北摂・北河内血液セミナー、北摂エリア腸疾患勉強会、淀川 GI カンファレンス、北摂胃腸研究会、大阪胃研究会、SB Club in 阪神、若手実践内視鏡研究会、関西腸疾患セミナー、経鼻内視鏡研究会 in 関西、臨床アレルギー研究会（関西）；2016 年度実績 32 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専攻医研修委員会が対応します。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2016 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2016 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2016 年度実績 6 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>内藤 雅文</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>市立吹田市民病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 ほか</p>

外来・入院患者数	外来患者 20,412 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 728 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

市立川西病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・川西市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (医事課職員担当) があります。 ・ハラスメント委員会が川西市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 8 名在籍しています (下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的 to開催 (2015 年度実績 医療倫理 1 回 (複数回開催), 医療安全 4 回 (各複数回開催), 感染対策 2 回 (各複数回開催)) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス (2017 年度予定) を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的 to開催 (2015 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的 to開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分

【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	泌代謝，腎臓，呼吸器，血液，感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	厨子 慎一郎 【内科専攻医へのメッセージ】 市立川西病院は川西市北部の中心的な急性期病院であり，市立豊中病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い，内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 8 名，日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本血液学会血液専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， ほか
外来・入院患者数	外来患者 6051 名（1 ヶ月平均） 入院患者 206 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本老年医学会認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本癌治療認定医機構認定施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働認定施設

大阪大学医学部附属病院

認定基準 (整備基準 23) 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪大学保健センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ・ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医は 114 名在籍しています。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。

<p>(整備基準 23) 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に開催（2015年度実績 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（内科系）を定期的に開催（2015年度実績 10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病連携カンファレンス、2015年度実績複数回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
<p>認定基準 (整備基準 23) 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群（2014 年実績 50 疾患群）について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。（2015 年度実績 剖検数 14。連携施設と併せて 16 以上）</p>
<p>認定基準 (整備基準 23) 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的で開催されています。 ・倫理委員会（未来医療倫理委員会、介入研究倫理委員会、観察研究倫理委員会）が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 11 演題）をしています。
<p>指導責任者 (整備基準 23)</p>	<p>プログラム統括責任者 金倉讓 副プログラム統括責任者 楽木宏実 プログラム管理者 竹原徹郎 研修委員会委員長 坂田泰史</p>
<p>指導医数（常勤）</p>	<p>日本内科学会指導医 114 名、日本内科学会総合内科専門医 60 名以下、内科学会指導医のうちの人数 日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本肝臓病学会専門医 12 名 日本循環器学会循環器専門医 37 名、日本糖尿病学会専門医 11 名、日本内分泌学会専門医 8 名、日本腎臓病学会専門医 11 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名、日本血液学会血液専門医 12 名、日本神経学会神経内科専門医 11 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、日本老年病医学会専門医 5 名</p>
<p>内科系 外来・入院患者数 病院 病床数 (整備基準 31)</p>	<p>2015 年度実績 外来患者延べ数 224048 名、退院患者数 4802 名 許可病床数 一般 1034 床、精神 52 床</p>
<p>経験できる疾患群 (整備基準 31)</p>	<p>研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます（2014 年度実績に基づく）。このほか、3 次救急の救命救急センターと連携して救急領域のローテーション研修を経験することが可能です。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設</p>

	日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年病医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設
--	--

国立病院機構刀根山病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署（窓口：管理課）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です（定期利用のみ）。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は1名在籍しています（下記） <ul style="list-style-type: none"> ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス2015年度実績11回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち2分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）をしています。
指導責任者	豊岡 圭子（内科学会指導医・神経内科専門医） 【内科専攻医へのメッセージ】 刀根山病院は、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、基幹施設・大阪大学医学部附属病院と連携して内科専門研修を行います。必要に応じて可塑性のあるプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目

	指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、 日本神経学会神経内科専門医 11 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 47,591 名（平均延数 3,965/月） 新入院患者 3,256 名（平均数 271.3/月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。（詳細はお問い合わせください）
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 など

市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会

(平成 30 年 3 月現在)

市立豊中病院

嶺尾 郁夫 (プログラム統括責任者, 内分泌・代謝内科分野責任者)

巽 千賀夫 (プログラム管理者, 神経内科分野責任者)

入江 基宏 (事務局代表, 内科専門研修センター事務担当)

稲田 正己 (研修委員会委員長, 消化器内科分野責任者)

武 弘典 (血液内科分野責任者)

中川 理 (循環器内科分野責任者)

阿部 欣也 (呼吸器内科・アレルギー分野責任者)

竹治 正展 (腎臓内科分野責任者)

(膠原病内科・救急・感染・総合内科分野については、各指導医が
担当します)

連携施設担当委員

大阪大学附属病院 岩橋 博見 (内分泌代謝内科寄付講座准教授)

市立吹田市民病院 森田 隆子 (診療局長)

市立池田病院 那波 一郎 (神経内科部長)

箕面市立病院 横江 勝 (神経内科部長)

刀根山病院 豊岡 圭子 (神経内科医長)

市立川西病院 厨子 慎一郎 (副院長)

オブザーバー

内科専攻医代表 1

内科専攻医代表 2

別表 1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数	
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標		
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1			
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1			
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1			
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1			3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上			3
	内分泌	4	2以上※2	2以上			3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上			
	腎臓	7	4以上※2	4以上			2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上			3
	血液	3	2以上※2	2以上			2
	神経	9	5以上※2	5以上			2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上			1
	膠原病	2	1以上※2	1以上			1
	感染症	4	2以上※2	2以上			2
	救急	4	4※2	4			2
外科紹介症例					2		
剖検症例					1		
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※3		
症例数※5	200以上 (外来は最大20)	160以上 (外来は最大16)	120以上	60以上			

- ※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。
- ※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。
- ※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)
- ※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例
- ※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

市立豊中病院内科専門研修プログラム 専攻医研修マニュアル

1) 専門研修後の医師像と修了後に想定される勤務形態や勤務先

内科専門医の使命は、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することです。内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

- ① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
- ② 内科系救急医療の専門医
- ③ 病院での総合内科（Generality）の専門医
- ④ 総合内科的視点を持った Subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得します。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにあります。

市立豊中病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として、内科医としてのプロフェッショナリズムの涵養と General なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成します。そして、大阪府豊能医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要します。また、希望者は Subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果です。

市立豊中病院内科専門研修プログラム終了後には、市立豊中病院内科施設群専門研修施設群（下記）だけでなく、専攻医の希望に応じた医療機関で常勤内科医師として勤務する、または希望する大学院などで研究者として働くことも可能です。

2) 専門研修の期間

医師 国家 試験 合格	卒後 1 年目	卒後 2 年目	卒後 3 年目	卒後 4 年目	卒後 5 年目	Subspecialty
	初期臨床研修		内科専門研修 (Subspecialty 研修) 市立豊中病院	内科専門研修 (Subspecialty 研修) 連携施設	内科専門研修/ Subspecialty 研修 市立豊中病院	消化器内科
						循環器内科
						呼吸器内科
						腎臓内科
						神経内科
						血液内科
						糖尿病・内分泌内科

病歴提出

筆記試験

図 1. 市立豊中病院内科専門医研修プログラム (概念図)

1 年目は基幹施設である市立豊中病院内科で専門研修（専攻医）を，2 年目は連携施設での研修を行います。3 年目には市立豊中病院内科で Subspecialty を含めた専門研修を行います。希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修（Subspecialty 重点研修）の開始を考慮します。

3) 研修施設群の各施設名（「市立豊中病院研修施設群」参照）

- 基幹施設： 市立豊中病院
- 連携施設： 市立池田病院
- 箕面市立病院
- 市立吹田市民病院
- 大阪大学附属病院
- 国立病院機構刀根山病院
- 市立川西病院

4) プログラムに関わる委員会と委員，および指導医名

市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会と委員名（「市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）

指導医師名（別表）

5) 各施設での研修内容と期間

専攻医 1 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に，専門研修（専攻医）2 年目の研修施設を調整し決定します。2 年目は決定した連携施設にて研修し、病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間を基幹病院にて研修します（図 1）。

6) 本整備基準とカリキュラムに示す疾患群のうち主要な疾患の年間診療件数

基幹施設である市立豊中病院診療科別診療実績を以下の表に示します。市立豊中病院は地域基幹病院であり，コモンディジーズを中心に診療しています。

2014 年実績	入院患者実数 (人/年)	外来延患者数 (延人数/ 年)	
消化器内科	2, 287	40, 693	
循環器内科	732	16, 843	
神経内科	454	8, 591	
糖尿病・内分泌内科	299	51, 151	
腎臓内科	203		
血液内科	448		
総合内科	309		
アレルギー	75		
膠原病	42		
感染症	397		
救急	294		
合計	6, 151		1, 172, 278

- * 13 領域について、入院患者，外来患者診療を含め，1 学年 9 名に対し十分な症例を経験可能です。
- * 13 領域のうち、膠原病分野以外の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（「市立豊中病院内科専門研修施設群」参照）。
- * 剖検体数は 2013 年度 11 体、2014 年度 13 体、2015 年度 10 体です。

7) 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

Subspecialty 領域に拘泥せず，内科として入院患者を順次主担当医として担当します。主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療の流れを通じて，一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

入院患者担当の目安（基幹施設：市立豊中病院での一例）

当該月に以下の主たる病態を示す入院患者を主担当医として退院するまで受持ちます。

専攻医 1 人あたりの受持ち患者数は，受持ち患者の重症度などを加味して，担当指導医，Subspecialty 上級医の判断で 5～10 名程度を受持ちます。膠原病・救急・感染症，総合内科分野は，適宜，領域横断的に受持ちます。

基幹施設例	専攻医 1 年目	専攻医 3 年目
4 月－ 6 月	循環器・呼吸器	内科一般／Subspecialty
7 月－ 9 月	消化器（胃腸膵・肝）	内科一般／Subspecialty
10 月－12 月	内分泌代謝・腎臓	Subspecialty
1 月－ 3 月	血液・神経	Subspecialty

* 1 年目は、市立豊中病院内科にて、3 ヶ月間ごとにローテートし、原則としてそれぞれの領域で入院した患者を退院するまで主担当医として診療にあたります。これを繰り返して内科領域の患者を分け隔てなく、主担当医として診療します（巻末別表 3 参照）。

* 2 年目は、連携施設での研修を行います。

* 3 年目は、市立豊中病院内科にて、不足する症例の分野を中心に内科一般と Subspecialty 研修をし、内科一般症例が充足した場合は Subspecialty 中心の研修を行います（巻末別表 3 参照）。

* 希望があれば内科研修当初 2 年間の適切な時期から内科研修と Subspecialty 研修の並行研修(Subspecialty 重点研修)の開始を考慮します。

8) 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。必要に応じて臨時に行うことがあります。

評価終了後、1 か月以内に担当指導医からのフィードバックを受け、その後の改善を期して最善をつくします。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医からのフィードバックを受け、さらに改善するように最善をつくします。

9) プログラム修了の基準

① J-OSLER を用いて、以下の i)～vi) の修了要件を満たすこと。

i) 主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とします。その研修内容を J-OSLER に登録します。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し、登録済みです（巻末別表 1 「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。

ii) 29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後に受理（アクセプト）されています。

iii) 学会発表あるいは論文発表を筆頭者で 2 件以上あります。

iv) JMECC 受講歴が 1 回あります。

v) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年に 2 回以上受講歴があります。

vi) J-OSLER を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性があると認められます。

② 当該専攻医が上記修了要件を充足していることを市立豊中病院内科専門医研修プログラム管理

委員会は確認し、研修期間修了約1か月前に市立豊中病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います。

〈注意〉「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は3年間（基幹施設2年間＋連携1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を1年単位で延長することがあります。

10) 専門医申請にむけての手順

① 必要な書類

- i) 日本専門医機構が定める内科専門医認定申請書
- ii) 履歴書
- iii) 市立豊中病院内科専門医研修プログラム修了証（コピー）

② 提出方法

内科専門医資格を申請する年度の5月末日までに日本専門医機構内科領域認定委員会に提出します。

③ 内科専門医試験

内科専門医資格申請後に日本専門医機構が実施する「内科専門医試験」に合格することで、日本専門医機構が認定する「内科専門医」となります。

11) プログラムにおける待遇、ならびに各施設における待遇

在籍する研修施設での待遇については、各研修施設での待遇基準に従う（「市立豊中病院研修施設群」参照）。

12) プログラムの特色

- ① 本プログラムは、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院である市立豊中病院を基幹施設として、大阪府豊能医療圏、近隣医療圏および大阪府にある連携施設とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます。研修期間は基幹施設2年間＋連携施設1年間の3年間です。
- ② 市立豊中病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するというだけでなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。
- ③ 基幹施設である市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核です。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます。

- ④ 基幹施設である市立豊中病院での1年間と連携施設での1年間（専攻医2年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群のうち、少なくとも通算で45疾患群、120症例以上を経験し、J-OSLERに登録できます。そして、専攻医2年修了時点で、指導医による形式的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる29症例の病歴要約を作成できます（巻末の別表1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。
- ⑤ 市立豊中病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを体験するために、専門研修2年目の1年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践します。
- ⑥ 基幹施設である市立豊中病院での2年間と専門研修施設群での1年間（専攻医3年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた70疾患群、200症例以上の主担当医としての診療経験を目標とします（巻末別表1「市立豊中病院疾患群症例病歴要約到達目標」参照）。少なくとも通算で56疾患群、160症例以上を主担当医として経験し、J-OSLERに登録します。
- 13) 継続した Subspecialty 領域の研修の可否
- ・カリキュラムの知識、技術・技能を深めるために、総合内科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科外来（初診を含む）、Subspecialty 診療科検査を担当します。結果として、Subspecialty 領域の研修につながることはあります。
 - ・カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させます。
- 14) 逆評価の方法とプログラム改良姿勢
- 専攻医は J-OSLER を用いて無記名式逆評価を行います。逆評価は毎年8月と2月とに行います。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、集計結果に基づき、市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。
- 15) 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合の相談先
- 日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします。
- 16) その他
- 特になし。

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3	
症例数※5	200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが，他に異なる15疾患群の経験を加えて，合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2例+「代謝」1例，「内分泌」1例+「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。

別表 2

市立豊中病院内科専門研修 週間スケジュール例 (消化器内科)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	
午前	消化器内科モーニングカンファレンス						担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直／講習会・学会参加など	
	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療	入院患者診療		
	総合外来診療 (3年目のみ)	上部消化管内視鏡検査・治療	腹部超音波検査	上部消化管内視鏡検査・治療	上部消化管内視鏡検査・治療	上部消化管内視鏡検査・治療		
午後	下部消化管内視鏡検査・治療	肝生検・ラジオ波焼灼療法	ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療	消化器内科専門外来診 (3年目のみ)	ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療			
	肝胆膵消化器内科・外科・放射線科合同症例検討会／消化管消化器内科・外科合同症例検討会	内科系合同症例検討会・CPC など	内視鏡病理検討会／抄読会 など	消化器内科症例検討会	講習会など			
	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など							

- ★ 市立豊中病院内科専門研修プログラム 4. 専門知識・専門技能の習得計画 に従い、内科専門研修を実践します。
- ・ 上記はあくまでも例：概略です。
 - ・ 内科および各診療科 (Subspecialty) のバランスにより、担当する業務の曜日、時間帯は調整・変更されます。
 - ・ 入院患者診療には、内科と各診療科 (Subspecialty) などの入院患者の診療を含みます。
 - ・ 日当直やオンコールなどは、内科もしくは各診療科 (Subspecialty) の当番として担当します。
 - ・ 地域参加型カンファレンス、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加します。

別表3 市立豊中病院内科系診療グループの特徴

血液内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	モーニングカンファ後、病棟診療				
午後			部長回診		
夕方		内科医会	血液内科カンファレンス		

午後からは、骨髄検査・輸血などの処置があります。

2) 血液内科の特徴

- * 血液疾患の症例が豊富で、良性・悪性の血液疾患をほぼ経験可能です。
- * 完全無菌室2床、準無菌室6床を備える、日本血液学会専門医研修施設です。
- * 悪性リンパ腫・多発性骨髄腫の適応症例に、自己末梢血幹細胞移植を施行しています。
- * 外来化学療法にも積極的に対応しています。
- * 血液内科カンファレンスには、看護師・臨床検査部技師（血液・輸血担当者）など他職種からも参加してもらっています。

呼吸器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前		気管支鏡			気管支鏡
午後	合同カンファ (外科)			呼吸器カンファ	

2) 呼吸器内科の特徴

- * 症例数が多く、疾患も多岐にわたっている。
- * 救急指定病院であり、緊急入院が多い。
- * 重症の呼吸不全患者は麻酔科と連携し、ICU管理で治療を行っている。
- * 呼吸器外科とは週に1回合同カンファを行っており、肺癌、自然気胸など手術適応症例がスムーズに外科へ転科できるシステムが構築されている。
- * 肺癌に関しては、呼吸器外科以外にも脳神経外科・放射線科と連携し、集学的治療が行われている。
- * 気管支鏡は年間170例以上施行している。
- * 日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会の認定施設であり、認定医取得のための資格が得られる。

消化器内科

1) 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前		上部消化管内視鏡検査・治療	腹部超音波検査	上部消化管内視鏡検査・治療	上部消化管内視鏡検査・治療
午後	下部消化管内視鏡検査・治療	肝生検・ラジオ波焼灼療法	ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療		ERCP・下部消化管内視鏡検査・治療
	消化器内科・外科・放射線科合同症例検討会	内科系合同症例検討会・CPCなど	内視鏡病理検討会／抄読会など	消化器内科症例検討会	

2) 消化器内科の特徴

- * 消化管内視鏡検査および内視鏡下治療に積極的に取り組み、症例数は非常に多い。大腸ポリープのEMRをはじめ、食道癌・胃癌・大腸癌に対するESDも多数例施行している。
- * 救急患者が多く、消化管出血に対する緊急内視鏡検査や内視鏡下止血術の症例数が豊富である。
- * 胆膵疾患に
- * 対する ERCP を多数例行い、緊急胆道ドレナージやステント療法も行なっている。EUS-FNAにも積極的に取り組んでいる。
- * 肝疾患領域では、各種肝炎治療や肝癌に対するRFAを行なっている。
- * 消化器癌に対する化学療法にも力を入れている。
- * 外科・放射線科との連携も強く、共同でカンファランスを行なっている。
- * 阪大病院を中心とした多施設共同臨床研究や当科独自の臨床研究に取り組んでいる。
- * 学会発表、国際学会発表、論文発表を多数行なっている。

神経内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	電気生理検査	電気生理検査			
午後	脳血管撮影			部長回診 神経内科カンファ	
夕方		内科系医会	脳卒中カンファ	神経放射線カンファ	

毎朝 SCU カンファレンスあり
週 1～2 回、神経内科救急当番（時間内）

2) 神経内科の特徴

- * 神経内科領域全般（急性神経疾患、神経難病、免疫関連疾患、てんかん、頭痛など）の幅広い疾患が経験できる。
- * 脳卒中センター（神経内科、脳神経外科、リハビリテーション科）がある。
- * SCU 当直があり、脳卒中超急性期（t-PA、脳血管内治療）も経験できる。
- * 神経内科専門医に加えて、subspeciality（脳卒中、電気生理、頭痛、リハビリテーション、ボトックス治療など）の専門医師がおり、指導が充実している。
- * 大阪大学神経内科を中心に多施設とも連携し、勉強会、情報交換会を行っている。

腎臓内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	人工透析/透析カンファレンス		人工透析		人工透析
午後			腎生検/病棟回診・カンファレンス		

2) 腎臓内科の特徴

- * 慢性腎炎の診断・治療から、保存期腎不全の管理、透析導入まで腎疾患の長い経過の診療に携わることができる。（人工透析室の運用・CAPD 外来も行っている）
- * 当院の特徴として common disease が多いが、それに伴う腎障害を診る機会も多い。
- * 最新の知見に基づいた新しい治療法も積極的に取り入れている（耳鼻科と共同で IgA 腎症に対する扁桃摘出＋ステロイドパルス療法、多発性のう胞腎に対するトルバプタン投与など）。
- * 維持血液透析は行っていないが、他院での維持血液透析患者の併発症で入院した場合の管理を行う機会が多い。

循環器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	心カテ・心リハ	心カテ・心リハ	心カテ	心カテ・心リハ 心筋シンチ	心リハ・運動 負荷検査
午後	心カテ	心カテ	心カテ		冠動脈 CT
夕方	入院患者カンファ	内科医会	カテ症例検討会・抄読会（心臓血管外科と合同）		

朝夕に CCU カンファレンスあり

2) 循環器内科の特徴

- * 心臓病センターとして循環器内科・心臓血管外科が協同して診療していること。診療科間や多職種連携が確立されておりスムーズな診療が行える。
- * 地域の基幹病院として 24 時間循環器救急を引き受けており、きわめて多くの循環器救急疾患の初療を経験できる。
- * 研修医に対するマンツーマン指導体制が充実しており、循環器専門医、総合内科専門医としての基礎的な力を身につけることができる。
- * カテーテル検査・治療件数が豊富で専門的なスキルを身につけることができる。
- * 昨今の高齢化社会に対応した心臓リハビリテーションや多職種での心疾患マネジメントにも力を入れており、種々の疾患の複合した病態を総合的に診療できる。

内分泌代謝内科 <http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/outpatient/naika/index.html>

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	負荷試験 病棟 糖尿病専門 外来	負荷試験 病棟 糖尿病専門 外来	負荷試験 病棟 糖尿病専門 外来	負荷試験 病棟 糖尿病専門 外来	負荷試験 病棟 糖尿病専門 外来
午後	糖尿病専門 外来		透析予防外来 糖尿病教室	専門回診	糖尿病専門 外来

2) 内分泌代謝内科の特徴

- * 急性期病院である当院には、糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群の急性代謝失調症例が多い（毎年 15 例以上）。

- * 甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼ、高 Ca クリーゼなど、内分泌救急も多い。
- * ハイリスク分娩例が豊富で、妊娠糖尿病や糖尿病合併妊婦を管理する機会が多い。
- * 糖尿病教育入院患者は毎年 200 例近くあり、各種病型・病態・病期の糖尿病症例を経験し、患者教育やチーム医療を実践できる。
- * インスリンポンプ（CSII）、持続血糖測定器（CGM）、両者を組み合わせた Sensor Augmented Pump（SAP）など先端機器を用いる治療を積極的に導入している。
- * 新規発症のバセドウ病や亜急性甲状腺炎など甲状腺疾患の紹介例が多く、治療開始時から患者を診療できる。
- * 褐色細胞腫、原発性アルドステロン症、クッシング症候群などの副腎・下垂体疾患症例を、診断から治療まで院内で完結して経験できる。
- * リサーチマインド育成に力を入れており、例年数編の学術論文が受理されている。内科学会、糖尿病学会、内分泌学会、関連学会など各学術会議に毎年演題を発表している。また、大阪大学関連病院の内分泌代謝専門医と専攻医が集うクリニカルカンファレンス（OEMCC や月曜会）で症例発表を行い、他施設との連携と情報交換を行っている。

市立豊中病院内科専門修プログラム 指導医マニュアル

- 1) 専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割
 - ・ 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が市立豊中病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
 - ・ 担当指導医は、専攻医が web にて J-OSLER にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
 - ・ 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
 - ・ 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や内科専門研修センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
 - ・ 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行います。
 - ・ 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時まで合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形式的な指導を行います。
- 2) 専門研修の期間
 - ・ 年次到達目標は、巻末の別表 1「市立豊中病院内科専門研修において求められる「疾患群」，「症例数」，「病歴提出数」について」に示すとおりです。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
 - ・ 担当指導医は、内科専門研修センターと協働して、毎年 8 月と 2 月とに自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形式的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形式的に行って、改善を促します。
- 3) 専門研修の期間
 - ・ 担当指導医は Subspecialty の上級医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価を行います。

- ・ J-OSLER での専攻医による症例登録に基づいて、当該患者の電子カルテの記載、退院サマリ作成の内容などを吟味し、主担当医として適切な診療を行っている第三者が認めうると判断する場合に合格とし、担当指導医が承認を行います。
- ・ 主担当医として適切に診療を行っている認められない場合には不合格として、担当指導医は専攻医に J-OSLER での当該症例登録の削除、修正などを指導します。

4) J-OSLER の利用方法

- ・ 専攻医による症例登録と担当指導医が合格とした際に承認します。
- ・ 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- ・ 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。
- ・ 専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボードによるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を専攻医がアクセプトされるまでの状況を確認します。
- ・ 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と内科専門研修センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- ・ 担当指導医は、J-OSLER を用いて研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

5) 逆評価と J-OSLER を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による J-OSLER を用いた無記名式逆評価の集計結果を、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧します。集計結果に基づき、市立豊中病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

6) 指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 2 月とに予定の他に）で、J-OSLER を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に市立豊中病院内科専門研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みみます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

7) プログラムならびに各施設における指導医の待遇

市立豊中病院および連携施設の給与規定によります。

8) FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します。
指導者研修（FD）の実施記録として、J-OSLER を用います。

9) 日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」の活用

内科専攻医の指導にあたり、指導法の標準化のため、日本内科学会作製の冊子「指導の手引

き」を熟読し，形成的に指導します．

- 10) 研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難な場合の相談先
日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．
- 11) その他
特になし．

別表1 各年次到達目標

	内容	専攻医3年修了時	専攻医3年修了時	専攻医2年修了時	専攻医1年修了時	※5 病歴要約提出数
		カリキュラムに示す疾患群	修了要件	経験目標	経験目標	
分野	総合内科Ⅰ(一般)	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ(高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ(腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例					2	
剖検症例					1	
合計※5	70疾患群	56疾患群 (任意選択含む)	45疾患群 (任意選択含む)	20疾患群	29症例 (外来は最大7)※ 3	
症例数※5	200以上 (外来は最大 20)	160以上 (外来は最大 16)	120以上	60以上		

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。(全て異なる疾患群での提出が必要)

※4 「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる。